

田中優さんへの質問 及び 田中優さんからの回答

Q 1 「国では安全安心を重視し、農薬や化学肥料を3割以上減らした減減栽培を進めています。有機栽培については減減の次という位置付けとなっています。100年後の農業や食生活を考えると、どのような農業を目指すべきかお考えをお聞かせ願います。

A 1 現在、ちょうど「美味しんぼ」で連載されていますが、新たなネオニコチノイド系の農薬が問題になってきています。農薬はどうしてもたちごっこになってしまうので、避けていかなければならないと思います。エネルギー的にも大きな消費です。
コンパニオン・プラントなど、複合的な農法で、有機を目指さざるを得ないと思います。問題はコストとの関係です。高く売れる仕組みの充実が必要です。それと同時に農業・林業・畜産を切り離す以前の農法でコストを削減する仕組みが必要だと思っています。

Q 2 脱原発活動ではどんなことをしているか。

A 2 ぼく自身は省エネと自然エネルギーへ移行を進めています。脱原発の理由ですが、コストが高すぎて日本の国際競争力を奪う結果になっていると考えています。
自分自身が調査が得意なので、その結果に基づいて、講演・執筆での表現が主になっています。活動は、現地に暮らす人たちのためにならなければ意味がないので、現地の人たちの話を聞くことが多いです。

Q 3 65～70以上の年の方が頑張っている仕事をしているが？（会社役員、政治家）等の人々、自分欲が多いのか、人のためになるつもりなのか。引退したらどんなに楽だろうか。どうしてでしょうか。

A 3 帰属意識が強いから、属したいということだと思います。気の毒ですが、日本では会社で奴隷のように働くのが一般的で、どんなに学生時代に良いことを言っていたとしても、会社に勤めると会社の見解通りの意見になります。
そうすると本来の自分の意見を作り、育てることができないことになってしまいますから、自分の意見の代わりに会社の意見を言わなければ存在価値をなくしてしまうでしょう。
だから最後まで組織に属したいと考えることになるのだと思います。

Q 4 水力発電なる自然エネルギーと河川環境の保全の接点を見いだすことが、当地域の課題、講師のお考えは？

A 4 水力発電は、風力発電の空気と比べると密度が800倍違うので、1/800の大きさで同じ電力が得られるすぐれた仕組みです。水力発電の発電量は、「水量×高さ×重力」ですから、ダムである必要はありません。小規模な流れ込み式で小さく安く作るのがいいと思います。

課題は

- ・電気を販売できないこと→これは買い取りになりそうです
- ・価格が安いこと→これも現在、政府が考慮中です
- ・電気が貯められないこと→これも日々進化しています
- ・電気を自由に取引できないこと→これは最大課題ですが、スマートグリッドを進めると、必然的に自由化が進められると思います
- ・水利権の取得が困難なこと→水の勢いを利用するだけで、水量が減るわけではないので、水利権者と話し合うのがいいと思います。具体的には農家さんです。
地域の特性によって大きく異なりますので、水量と高さに合った発電装置を選択するのが重要です。

Q 5 ガスの火で料理を行っている先進国は無いと聞きましたが、本当なのか。ガスの炎を使わないとしたら電気ということですか？近いうちにLPガスが無くなるから早く電磁調理器に変えた方がいいという人がいますが、電磁波に弱い人はどうしたらいいのですか？

- A 5 いや、調理の発達しているイタリア、スペインなどはガスが中心です。ある意味、粗雑な(失礼ですが)料理の多いドイツなどでは、そもそも台所に換気装置がなく、周囲に油が飛ぶことのない料理が多いので、電磁調理器で足りているのかもしれませんが。
この電磁波は大きすぎるので、やはり調理器具には向かないと思います。LPガスがなくなれば、やはり電気もなくなります。電気は化石エネルギーからほんの40%だけ電気にして取り出しているものですから。
すると将来はやっぱり自然エネルギーです。調理では、ペレットストーブや薪ストーブでもいいですし、天然ガスは生ごみを嫌気性バクテリアに発酵させることで作ることができます。新潟市の平野部でガスが取れるのと同じです。農家で自宅で発酵させて煮炊きに使っている方もいますし、中国ではすでに2000万基も導入されています。
畜産をされていればそれでも足りませんが、そうでない場合は生ごみが少ないので、町会単位で導入できればいいと思います。

Q 6 風力発電、ソーラー発電は本当に環境に良いのですか？工業製品としての発電システムが増えれば増えるほど、エネルギーと資源が使われ廃棄物が増えます。工業製品を作るには、石油がなければ不可能です。風力もソーラーパネルも耐用年数を過ぎるまでに発電できる電気は、それを作るために消費された電力よりも多く発電できません。

- A 6 これを計算するのが「エネルギー・ペイバックタイム(EPT)」です。計算の結果では、最も効率の悪い太陽光発電で2.5年～3年、風力発電では1年以下となっています。悪いのは小型風車です。風力発電は、風速の三乗倍、直径の二乗倍となっているから、小さなものは作るエネルギーを取り戻せないからです。
たとえば今、二酸化炭素を含んだ水に「みどりむし」を入れ、それが作りだした有機物から石油代替物質が取り出されています。私はバイオエタノールなどには反対ですが、これなら十分に可能性がります。
EPTで調べて見られるといいと思います。自然エネルギーの多くは環境的にプラスになっています。

Q 7 十日町という地域をどの様にしていったら良いか？

- A 7 地域で資金が回れば経済は活性化しますから、地域内に貯蓄を残し、地域内で消費をし、地域内で稼げればいいわけです。
地域からおカネが流出しないことが大事です。もっと悪いのは日本からおカネが流出してしまうことです。その点から考えると、自給率で見るとエネルギーが4%、木材が20%、食料が40%ですから、その少ないものから順に地域化するのがいいことになります。
いくらでも方法はあります。自治体などが配る資金は、可能な限り「地域共通 商品券」に変える、地域内に共同販売所(朝市でいい)を復活させる、エネルギー・木材・食料を自給する、自給の安心感を商品化するなどです。
地域にないものを探すのではなく、地域にあるものを役立てる発想が大事だと思います。「雪氷エネルギー」などはその典型です。

Q 8 電気自動車に買い替えたいのでお金を貸してください。借りれますか？

- A 8 今はまだ値段が高すぎるので、待った方がいいと思います。パソコン並みに日進月歩ですから。融資ですが、NPOバンクは基本が地域で作るものです。地域の顔の見える関係の人だから、踏み倒すリスクが減るのです。
未来バンクは極力、地域でやってほしいと思っています。借りられる可能性はゼロではないですが、返済能力によると思います。

Q 9 電気は歓迎ですが電磁波が心配です。体への影響などどうなのでしょう。特に車(電気車)は・・・。

A 9 はい、おっしゃる通りです。
電磁波過敏症の人の中には、電車に乗れない人もいます。「だから電車はなくて ガソリン自動車にすべきだ」という話にはならないと思います。
つまり長くうまく付き合える関係が大事なのだと思っています。
ただ、電磁波で気にすべき点は
・距離が近い
・時間が長い
・電磁波が大きい の三つです。
電気自動車の場合、一日平均45分程度ですから、電子毛布やカーペットよりは 心配ないものになると思います。

Q 10 国は原発を推進しています。ウランも85年でなくなるということですが、どうして今、なお原発を増やそうとしているのでしょうか？

A 10 アメリカでは雇用対策です。
日本政府が推進しているのは、労組の圧力と電力会社及び周辺企業の期待に応えたせいだと思います。それ以上に問題なのは、政治家にきちんと調べる人が少ないことでしょう。
自民党ですが、河野太郎さんはきちんと調べて、未来がないからやめるべきだと述べています。

Q 11 街おこしでは「需要」に見合ったものを見つけていくということでしたが、それは地域によって違うのでしょうか。田中さんはそれを「ある」と見ることが大事とおっしゃいましたが、「ある」ものを見つけていく人を増やしていくために地域では、また個人ではどのような事が大事だと思われますか？

A 11 可能性を見出せない、誰でも動きがとれなくなります。まず可能性を伝えることが大事だと思います。可能性を見出せない人は、解決できる見通しが ない人なので、除外せざるを得ないですが。
可能性を見出すために、ワークショップなどをやれるようになると思います。実は今、そのやり方を準備中ですが。
地域で困っているものを出し合って、それを別な方法で解決できないかを話し合うのがいいと思います。カネがかかりすぎて困っているものとか。
地域の中に、自由に話し合える場を作ることが大事だと思います。

Q 12 人間を変えることはできますか？

A 12 できません。すべきでもありません。
可能なのはその人自身が自分を変えることだけです。可能性を見せることはできるので、その人が考えてきた「世間」のイメージを変えることはできます。
あとはその人が自分を変えたいと思うかどうかです。

Q 13 地域の人々を勇気づけるとても良い講演でした。ただ、実行を移す時にみんな壁に当たって疲れてしまっています。先進的な視点はやはり都会の人のほうが優れていてその力が必要です。そんな力がもらえる交流が生まれればいいのですが、何かアイディアはありますか？

A 13 ぼくの話していることの多くは、地方の人が地域で考え出したものが多いです。ただ都会は人が多くて関係が希薄ですから、「こういうことをしないか」と言ったときに、集まる人がいるという点は有利かもしれません。
しかしこの点は、インターネットの時代ですから、必ずしも東京で集まる必要はないのです。つまり地域の魅力とテーマの面白さで都会の人たちを十日町なら十日町に集める方法を模索してはどうでしょうか。
以前、玉井袈裟夫さんという信州大学の先生がこう言っていました。「人には土の人と 風の人があって、土の人は風の人を見て、風来坊で無責任で勝手なことばかり言うとか批判し、風の方は土の人をその場から離れず保守的で鈍重で、何も変えようとしないと批判します。しかし風の人と土の人が交わるとき、そこに風土が生まれるのだ」と。
それを意識的に仕組んではいかがでしょうか。

Q 14 ここまで分かっているのになぜまだできないのか？

A 14 分かっていないのだと思います。表面的な理解しかされていないし、特に政策決定者が理解していません。それを伝えられる方法が必要なのだとは思いますが。